

ウイヌどもからとり上げたものである。

動植物すべてを含め、保護林を恒久的に守るのか、あるいは将来、人的に利用するとしても、貴重な国家財産に 변りない。それらがこのような形で一部の人間によって消されていくことは大きな問題だ。私は、カリマントンにおける森林保護管理が十分とはいかなくても、せめて今日の日本なみになって欲しいと願わずにはいられない。さいわい私のカウンターパートは野生生物管理の分野の人であり、今後、そんな問題についても十分討議していきたい。

新刊紹介

◎アグロフォレストリー・システム (OTS/CATIE: Sistemas Agroforestales - Principios y aplicaciones en los tropicos -, 818 pp., 1986, San José, Costa Rica, \$ 20.00)

アグロフォレストリーは各国の農山村で伝統と経験に基づいて創りだされた土地利用形態の一つであり、その作物と林木と土地の利用の組合せは数多く、システムを特定の表現で述べることはむずかしい。ところがこうした土地利用法について興味もたれるようになったのは熱帯林の破壊を防止し、環境保全を維持しなければならないと意識するようになってからのことであり、従って学問的な体系が整理されるようになったのはごく最近のことである。世界各地には数多くの資料や情報が存在していたにも拘らず、ラテンアメリカ諸国ではこれまでスペイン語のイディオムにも欠けていた関係から研究訓練機関ですら用語には混乱を余儀なくされていた。本書はこれらの混乱を解き、主としてラテンアメリカの大学教育者、学生、研究者、研修生用のテキストあるいはマニュアルとして編集されたものであるが、他の地域の人達にとっても知識を貯える上で有意義な本といえる。著者は熱帯研究機関(OTS)に加盟しているアメリカの大学教授から選ばれ、編集にはOTSとCATIE(熱帯農業研究訓練センター)のプロジェクトが当たっている。

内容の30%はアグロフォレストリー・システムの概要、地域特性、普及、将来展望等が7章に分けて書かれた基礎編で、これに続く応用編として事例研究、練習問題、教育者のための手引き、補習講義、文献集、アグロフォレストリー・システムの情報源やラテンアメリカ諸国のアグロフォレストリー・システムに関するICRAFとCATIEの情報目録が記載されており、基礎編を補っている。これまでややもすれば我々にとって情報の少なかったラテン・アメリカのアグロフォレストリーについては豊富な写真やイラストによって十分理解することができ、CATIEでのJICAのアグロフォレストリーに関する第三国研修のテキストでもある。(内村悦三)